

# 平成30年度 学校経営の改革方針

平成30年4月  
鈴鹿市立椿小学校

## I 教育目標

### 1 学校教育目標

自ら学び、力を合わせてやりぬく子どもの育成

### 2 目指す学校像

- (1) 確かな学力を身に付けた子どもを育む学校
- (2) 心身ともに健康でたくましい子どもを育む学校
- (3) 命と人権を大切に、安心して楽しく学べる学校
- (4) 家庭や地域と連携・協働する学校

### 3 目指す子ども像

- (1) 進んで学習に取り組み、自己実現に向けて努力することができる子ども
- (2) 心身ともに健康で、たくましい子ども
- (3) 思いやりの心もち、みんなと共に高まろうとする子ども
- (4) 地域に学び、地域と共に生きる子ども

### 4 学校経営方針

- (1) 確かな学力の育成のための指導方法の改善と指導力の向上
- (2) 心身ともに健やかな子どもの育成
- (3) 一人ひとりの自己有用感を高め、共に生きる力を育成する
- (4) 安全管理と安全教育の充実・徹底による安全・安心な学校の構築
- (5) 学校運営協議会の熟議を生かした学校運営、教育活動の充実、地域との連携による「開かれた学校」の創造

### 5 生徒指導方針

- (1) 生涯にわたり学び続ける基盤となる基本的な生活習慣、学習習慣の定着を目指し指導を行なう。
- (2) 児童理解を深めることによって、一人ひとりの悩みや課題を把握し、解決に向けて子どもに寄り添いながら指導にあたる。
- (3) 生命の尊重や善悪の判断、規範意識などについて理解させ、行動化を図る。
- (4) 縦割り班活動を中心にした異年齢交流を通じて、思いやりの心や社会性を培う。
- (5) 家庭や地域、関係団体との連携を強化し、地域ぐるみで生活指導の充実を図る。
- (6) 問題行動の発生時には、教職員が一丸となってその解決に取り組む。
- (7) 不登校を生まない学校づくりを行う。

## Ⅱ 現状と課題

### 1 子どもの実態

児童は、全体的にみて、穏やかで素直である。全学年が単学級でありクラス替えがなく転出入も少ないため、子ども同士の関係は比較的安定しており、家庭的であるといえる。しかし、このような人間関係はともすれば集団の中での人間関係が固定化され、一人ひとりの子どもが自分の思いを十分表現することができなかったり、周りの目を気にしたりして個性を出し切れないこともある。そのため、集団におけるそれぞれの子どもの立場や状況をしっかり把握し、子ども達が自分の思いや考えを表現でき、聞き合える仲間づくりを行っていく必要がある。

学習面では、与えられた課題には真剣に取り組むが、自主的・自発的な姿勢に課題がある。

### 2 保護者・地域の実態

同じ敷地内に三世代が同居する家庭が多く、昔からの慣習を重んじる傾向にある。地域の人や保護者同士の連帯感が強く、学校教育への関心が高い。学校の教育活動への理解もあり、協力的である。地理的に放課後の習い事や通塾は遠方への送迎を必要とするため、学校の指導・支援への期待が高い。

### 3 確かな学力の定着と指導の充実

#### (1) 自ら学ぶ力を育成するための授業改善・授業研究

##### ① 全国学力・学習状況調査の結果より

国語 A	73 (全国比 97.6)	国語 B	63 (全国比 109.6)
算数 A	84 (全国比 106.9)	算数 B	45 (全国比 98.0)

- ・ 全国学力・学習状況調査結果の分析と授業改善の方向性を明らかにするための研修会を実施した。

##### ② 言語能力・活用力の向上の取組

###### ○ 国語科における基礎基本の定着

- ・ 繰り返しとリズムを大切にした音読指導については全学年で計画的に取り組んだ。
- ・ 漢字指導については、音声による漢字の読みや四方書きにより定着を深めた。
- ・ 国語辞典の辞書引き指導を1年生から行なうことにより、身近なところに辞書を置き、付箋を付けて辞書引きをする習慣がついてきた。
- ・ 音読は家庭学習のひとつと位置づけ、家庭と連携を図り実施した。

###### ○ 活用力の向上

- ・ 読書活動を推進し、読解力の向上と表現方法の育成に取り組んだ。
- ・ 思考力・判断力を培う書く活動の研究を行った。

##### ③ 基礎基本の定着の取組

- ・ 定期的に「椿タイム」を設定し、地域の学習ボランティアの支援を受けて算数の基礎基本問題に挑戦させた。
- ・ 夏季休業中に、全学年で「算数教室」を3日間実施。また、夏季休業・冬季休業に、希望者を対象に補充学習を実施した。
- ・ 「家庭学習の取組」週間を年間6回実施し、目標学習時間の達成は最終回で72%であった。

##### ④ 授業改善と指導力向上の取組

- ・ 授業の「めあて」の明示と「振り返り」活動の充実に取り組み、その授業でつけた力を指導者・児童で共有を図った。
- ・ 発問や説明のしかたを工夫し、全ての児童にわかりやすい授業づくりに取り組んだ。

- 学校運営協議会委員に授業公開し、保護者・地域の視点からの意見をいただき、改善の一助とした。
  - 11月末の児童アンケートにおいて、“学校の勉強はよくわかっていますか”の設問に対して、肯定的な回答は86.1%であった。児童に興味を持たせる授業づくりの取組の一層の充実が必要である。
- (2) コミュニケーション活動の充実
- 全ての学年でEEタイムを実施し、コミュニケーション能力の素地を養った。
  - 3年生以上の学年では、中学校区の外国語先行実施校指定を受け、新学習指導要領に基づいた指導を行った。
  - 5年生社会見学・6年生修学旅行のインタビュー活動に取り組んだ結果、積極的かつ意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られた。
  - EEタイムの児童満足度は、85.4%、保護者満足度は、94.8%であった。
- (3) キャリア教育・地域学習
- すずか夢工房や地域ゲストティーチャーによる授業を51回実施した。
  - 校区の産業の中心であるお茶作りや、耕作放棄地を活用したソバ作り・ソバ打ち等多くの地域の人々を師とした学びの機会を設けた。
- (4) 多文化共生教育の推進
- JSLカリキュラムによる授業展開を進めることにより、外国人児童にもわかりやすい授業展開を目指した。
  - 夏季・冬季休業中に補充学習を実施した。
- (5) 特別支援教育の推進
- 特別支援コーディネーターを中心とした校内体制の充実を図った。
  - 普通学級に在籍する、支援の必要な児童への支援について、子どもの状況に応じてケース会議を実施。また、スクールカウンセラーによる相談・助言をもとに支援に当たった。

#### 4 健やかな体の育成

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着
- 「家庭学習の手引き」を活用し、家庭、学習、読書、家庭でのルールについて、学校と家庭が共通理解を図り、基本的な生活習慣の定着と連携させた指導を行なった。
  - 「みえの学力向上推進県民運動」の取組を年3回実施し、児童への指導を行うとともに結果を学校だよりで発信することで保護者への啓発を行った。
- (2) 体力・運動能力の向上の取組
- 全学年で新体力テストを実施。事前に各項目の基本動作やポイントを指導した。
  - 全国調査の対象となる5年生の新体力テスト結果（体力合計点平均）は、以下のとおりである。
    - 男子 55.33（国の目標値 55）
    - 女子 52.50（国の目標値 56）
  - マラソン大会は全員が参加し、完走することができた。

## 5 豊かな心の育成

### (1) つながりを育てる学級づくり

- ・ 校内人権研修会において視点児童を中心に据えた学級指導の在り方について情報交換を行い、個に応じた指導に取り組んだ。
- ・ 学期ごとにいじめ調査を実施。「いじめを受けている」と答えた児童から聞き取り調査を行い、学級や周りの子どもの状況を把握した上で、必要な指導や対応を行った。「学校は楽しいですか」の児童満足度は、84.6%であった。「お子さんが楽しく学校へ通っていますか」の保護者満足度は 94.8%であった。児童の満足度の更なる向上に向けて、全職員で対策会議を実施した。
- ・ 児童アンケート“いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う” 94.6%であった。全ての児童が“いけない”と思えるように、引き続き心の教育を推進していく必要がある。

### (2) 実践力を高める道徳教育の推進

- ・ 年間35時間の道徳の時間の確保とともに児童に即した内容の精選や実践力を身に付けた児童の育成に心がけて指導を進めた。

### (3) 縦割り班活動を推進し、人間関係や社会性を育成するための取組

- ・ 「わくわくタイム」の異年齢集団の遊びを通じて、高学年のリーダー性や仲間とのふれあいの大切さを感じ取らせる取組ができた。
- ・ 「わくわくタイム」の満足度は76.9%であり、企画・運営に更なる工夫が必要である。
- ・ 縦割り班は、運動会・集会などでも活用しており、子ども達の人間関係や社会性を広げる効果が大きかった。

### (4) あいさつ運動

- ・ 月1回、児童会・地域・教職員によるあいさつ運動を実施した。学校への来客から、あいさつがよくなるという声をいただいている。
- ・ 小中連携あいさつ運動として鈴峰中学校と連携しながら、あいさつの輪を広げることができた。

### (5) 幼小中連携

- ・ わくわくタイムや行事など、幼稚園との交流は充実している。
- ・ 夏季休業中に鈴峰中学校区ラジオ体操の会を実施した。
- ・ 人権フォーラムに6年生28名が参加。鈴峰中学校区小中の代表と「仲間づくり」をテーマに意見の交換を行った。
- ・ 小中連携の取組として、鈴峰中学校の体育教諭と英語教諭の出前授業を実施した。特に外国語の授業では毎週中学校教員が6年生にT.Tで指導する機会があり、中学校の学習への接続を円滑に行うことができた。

## 6 安全安心な学校づくり

### (1) 登下校の安全の確保

- ・ 通学路点検を増やすとともに、校長による集合場所巡回を毎日行った。
- ・ 地区児童会において、安全確保に向けた情報発信と指導を行った。
- ・ 校外での自転車の乗り方指導を含んだ交通安全教室を実施した。
- ・ PTAによる「子どもを守る家」との情報交換を行うとともに、今後の取組について依頼をした。
- ・ 悪天候時に、鈴峰中学校区の幼少中と連携して対処した。
- ・ 新名神建設工事に伴い、事業所との連絡を密に行った。

- (2) 防犯教育の充実
  - ・ 10月に、メール配信システムを活用した児童引き渡し訓練を実施した。
- (3) 危機管理マニュアルの見直しと校内体制の整備
  - ・ 危機管理マニュアルの見直しを実施した。
  - ・ 椿っ子見守り隊への登録の呼びかけを地域・保護者に行った。大きな増員はなかったが、自主的に見守りを続けてくれる方に登録をお願いした。
  - ・ 安全安心マップの見直しを実施した。
  - ・ PTAと連携し、夏季休業中に居住地区の子どもを守る家や危険箇所のチェックを親子で実施した。

## 7 開かれた学校づくり

- (1) 鈴鹿型コミュニティスクールの推進
  - ・ 学校運営協議会を6回実施した。
  - ・ 学校運営協議会委員に対する公開授業を実施した。
  - ・ 最終回において、学校関係者評価を実施した。
- (2) 保護者、地域住民との連携
  - ・ 土曜授業を保護者に公開して、学校教育と家庭教育・地域における教育の連携を図った。
  - ・ 学校だよりを31号発行し、ホームページを76回更新する等により、学校の取組を積極的に発信することができた。
  - ・ 「学校と地域・保護者との連携はうまくいっていますか」の保護者満足度は、94.8%であった。
- (3) 学習ボランティアの活用
  - ・ 今年度も新たな学習ボランティアに参加いただいたが、総人数の増加にはつながりきれていない。引き続き、地域に増員の協力を呼びかけていく必要がある。
  - ・ クラブ活動や生活科や総合的な学習の時間に、指導や安全確保等でボランティアの支援を受けた。
  - ・ 算数科の学習(椿タイム)時の採点サポートを受けた。そのことにより、児童の理解が進み、自信を持てるようになった児童が増加した。
- (4) 学校評価の推進
  - ・ 年間2回、児童アンケートと保護者アンケートを実施し、分析結果は学校だよりで公開した。
  - ・ 学校自己評価及び学校関係者評価は、ホームページで公開した。

## 8 教職員の総勤務時間の縮減

- (1) 職員会議の時間短縮
  - ・ 提案事項の事前配付を行い、時間短縮を図ったが、児童の情報交換の時間を新設したため、時間短縮とはならなかった。
- (2) 校務の取り組み方の見直しと教職員の意識改革
  - ・ 校長によるタイム・マネジメントの講話を行い、計画的で効率的な業務の推進について共通理解を図った。
  - ・ 管理職による退校時間の呼びかけを徹底し、総勤務時間が短縮された。

### Ⅲ 中長期的重点目標

#### 1 確かな学力の定着と指導の充実

確かな学力を保障するため、授業改善のための方策を検討し、指導力の向上を目指す。

#### 2 健やかな体の育成

全ての活動の基盤となる健康な体を育成する。

#### 3 豊かな心の育成

自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、共に生きる力を育成する。

#### 4 安全安心な学校づくり

安全・安心な学校をつくるため、安全管理と安全教育の充実・徹底を図る。

#### 5 開かれた学校づくり

家庭・地域と連携して学校運営の改善と教育活動の充実を図り、「開かれた学校」を目指す。

### Ⅳ 本年度の行動計画

#### 1 確かな学力の定着と指導の充実

##### (1) 自ら学ぶ力を育成するための授業改善・授業研究

##### ① 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの活用

- ・ 全国比（県比）100 を目標として学力の向上を図る。
- ・ 調査結果を分析し、課題克服に向けた授業改善を図る。

##### ② 言語能力・活用力の向上

- ・ 内容理解に重きを置いた音読指導を実践する。
- ・ 既習漢字の習熟を図った漢字学習を実践する。
- ・ 国語辞典を低学年から活用する。
- ・ 読書活動を推進し、読解力・表現力の向上を図る。
- ・ 思考力・判断力を培う書く活動を授業や学習に取り入れる。

##### ③ 基礎・基本の定着

- ・ 椿タイムの効果的な形態・手法を検討し、年間7回実施する。
- ・ 長期休業中の補充学習を実施する。
- ・ 家庭学習の定着にむけた指導および保護者への啓発に取り組む。  
(児童の目標学習時間達成率80%)

##### ④ 授業改善と指導力の向上

- ・ 授業のめあての明示と振り返り活動を図る。
- ・ 外部講師を招聘した授業研究を計画的に実施する。
- ・ 若手教職員の資質・能力向上に向けた校内研修体制の充実を図る。
- ・ 授業に対する満足度90%以上を目指す。

##### ⑤ 5・6年外国語科、3・4年外国語活動の先行実施

- ・ 新学習指導要領への円滑な移行のため、鈴峰中学校区小中学校で連携し、5・6年外国語科と3・4年外国語活動の先行実施に取り組む。

##### (2) コミュニケーション能力の育成

- ・ 全学年でEEタイムを実施する。
- ・ EEタイムの満足度90%以上を目指す。
- ・ 体験的コミュニケーション活動を推進する。
- ・ 他の小学校と交流し、積極的に関わろうとする態度の育成を図る。

- (3) キャリア教育の推進
  - ・「すずか夢工房」や「ゲストティーチャー」の招聘を全学年年間2回、計20回以上実施し、「生き方」や「考え方」を学ぶ機会とする。
  - ・発達段階に応じ、地域と連携した事業を推進する。
- (4) 多文化共生教育の推進
  - ・インタビュー活動等を通じて、外国籍の人々と積極的にコミュニケーションをとることができる児童を育成する。
- (5) 特別支援教育の推進
  - ・特別支援教育コーディネーターを中心として校内体制の充実を図る。
  - ・すずかっ子支援ファイルを活用し、支援体制を充実させる。

## 2 健やかな体の育成

- (1) 「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着
  - ・「みえの学力向上県民運動」チェックシートを活用し、家庭学習、読書、家庭でのルールについて、学校と家庭が共通理解を図り、基本的な生活習慣の定着と連携させた指導を行なう。
  - ・自己点検活動（家庭学習の取組）を年間6回実施する。
- (2) 体力・運動能力の向上
  - ・基本的な体の動かし方、効果的な体の動かし方に着目した指導を行う。
  - ・新体力テストを全学年で実施する。
  - ・駆け足運動・マラソン大会を実施する。

## 3 豊かな心の育成

- (1) つながりを育てる学級づくり
  - ・視点児童を中心に据えた学級経営を行う。
  - ・職員会議の情報交換等、様々な視点から学級づくりを検証する。
  - ・早期発見・早期対応に努め、「いじめ解決100%」を継続する。
  - ・不登校を出さない取組に向け、職員が共通意識を持って対応する。
  - ・学校生活に対する満足度90%以上を目指す。
- (2) 実践力を高める道徳教育の推進
  - ・道徳的判断力を高め、道徳的心情を豊かにする、児童の実態に応じた授業展開を行う。
  - ・教科「道徳」としての評価を的確に行う。
- (3) 縦割り班活動の推進と、人間関係や社会性の育成
  - ・計画的に「わくわくタイム」を実施し、事後指導の充実を図る。
  - ・「わくわくタイム」の満足度90%以上を目指す。
- (4) あいさつ運動の実施
  - ・月1回、児童会・地域・教職員によるあいさつ運動を実施する。
- (5) 幼小中の連携
  - ・鈴峰中学校区ラジオ体操の会・人権フォーラムを実施する。
  - ・小中の体育科・英語科の授業交流を行う。

## 4 安全安心な学校づくり

### (1) 登下校の安全の確保

- ・ 定期的な通学路点検と、職員・保護者・地域によるパトロールを実施する。
- ・ 地区児童会において、安全確保に向けた情報発信と指導を行う。
- ・ 交通安全教室（自転車の乗り方指導）を全校で実施する。
- ・ 地区の危険箇所や子どもを守る家の確認を親子で行う。
- ・ 「子どもを守る家」の更新，依頼をPTAと協働して実施する。
- ・ 新名神建設工事施工者のNE×CO中日本との密な連絡体制を維持する。
- ・ 鈴峰中学校区の幼少中と連携する。

### (2) 防犯教育の充実

- ・ 「不審者」「連れ去り」等の防犯訓練を実施する。
- ・ メール配信等による「不審者情報」の的確な伝達を行う。

### (3) 危機管理マニュアルの見直しと校内体制の整備

- ・ 危機管理マニュアルを定期的に見直す。
- ・ 教職員の危機管理意識の向上を図る。
- ・ 校区安全安心マップを定期的に見直す。
- ・ メール配信システムを活用した緊急引き渡し訓練を実施する。

## 5 開かれた学校づくり

### (1) 鈴鹿型コミュニティスクールの推進

- ・ 学校運営協議会を年6回開催する。
- ・ 椿小学校としての強みや弱みを検討するとともに、地域・保護者との協働による学校運営を行う。

### (2) 保護者や地域との連携強化

- ・ 教育活動への保護者・地域住民の参画を推進する。（各種ボランティア等）
- ・ 情報提供を充実させる。（学校だより月2回、ホームページ50回更新等）

### (3) 学習ボランティアの活用

- ・ 読み聞かせボランティア、学習支援ボランティアの増員を図る。
- ・ 体験学習ボランティアの支援により、授業（ミシン、裁縫、調理等）、クラブ指導、体育行事等の充実を図る。

### (4) 学校評価の推進

- ・ 児童、保護者の教育活動に対する満足度調査を実施し、結果を公表する。
- ・ 学校自己評価と学校関係者評価を実施し、結果を公表する。

## 6 教職員の総勤務時間の縮減

### (1) 職員会議の時間短縮

- ・ 各項目の検討時間を事項書に明記し、時間短縮を図る。
- ・ 提案文書の事前配付と、参加者の内容把握を前提とした議事進行を行う。

### (2) 校務の取り組み方の見直しと教職員の意識改革

- ・ 教職員一人ひとりの強みを生かせる校務分掌の割り振りをを行う。
- ・ 行事や教育活動を重点化・焦点化し、必要に応じてマニュアル化する。
- ・ 校務を精選するとともに校務への取り組み方を見直す。
- ・ 過重労働対策報告用紙を活用した教職員自身による取組を行う。



- 勤務時間終了時に管理職から全職員への声かけを実施する。
- 放課後に開催される全会議のうち 60 分以内に終了する会議の割合を50%とする。
- 時間外労働時間を月あたり1人4時間削減する。
- 休暇取得日数を1人年1日増加させる。
- 月80時間を超える時間外労働者を引き続き0とする。
- 定時退校日を月2回以上設定する。